

HILLS LIFE

TORANOMON HILLS SPECIAL



©孫子プロ
©森ビル

**Hello,
Mirai Tokyo**
TORANOMON HILLS

未来の東京は、
ここからはじまる。
虎ノ門ヒルズ。

特集 **Global & Personal**

ホテルライフスタイルから、少し先の未来をのぞいてみよう

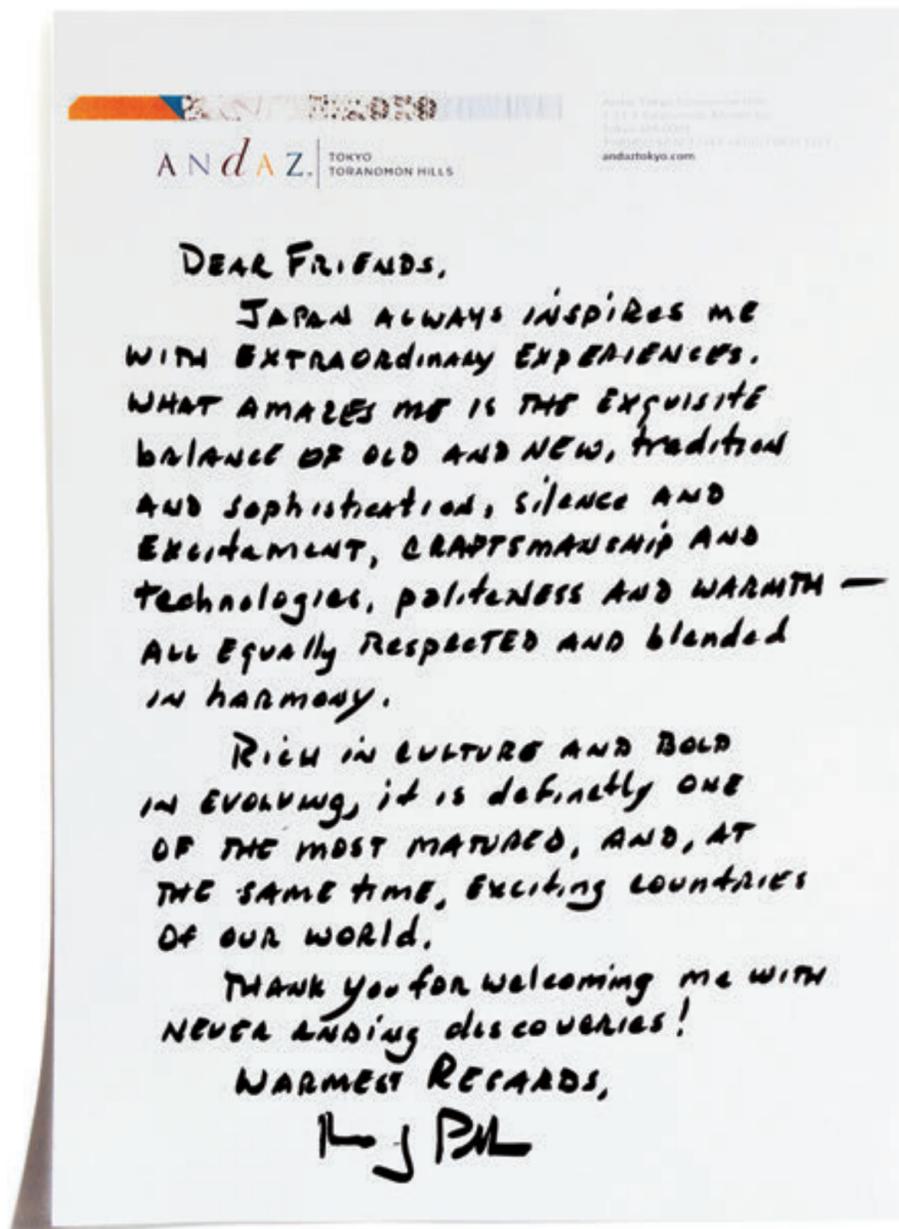
Grand Hyatt Tokyo / Andaz Tokyo

NEW TOKYO MAP

新 東京地図

ハイアット ホテルズ コーポレーションの会長、
トーマス・プリツカーさんに聞きました。
東京の街に期待することは何ですか？

Photographs by Norio Kidera All Text (P2-11) by Sawako Akune Edit (P2-11) by Kazumi Yamamoto



東京の友人へ。
日本は素晴らしい経験に満ちた刺激的な場所。
古きものと新しきもの、伝統と洗練、静けさと興奮、職人の技と最新テクノロジー、
奥ゆかしさと温かさ……それらのすべてが等しく大切にされ、素晴らしい
ハーモニーで調和している。その繊細なバランスにはいつも驚かされます。
豊かな文化を持ちつつも革新を恐れないこの国は、わたしたちの生きる世界の中でも、
いちばん成熟した、そしてエキサイティングな国のひとつに違いないでしょう。
訪れる度に新たな発見をもって迎えてくれることに感謝を！



東京を訪れるのは、私にとっていつだってエキサイティングなひととき。この街はあらゆる点で魅力的だと思うのです——まずは環境のよさ。この規模の都市としては非常に緑が多く、住みやすさはアジアの中でも群を抜いていると思います。さらに、インフラが整っていて利便性が高く、それでいて文化や娯楽も豊富と、ビジネス・観光のどちらを考えた時にも申し分ない。東京ほどにすべてを備えていて、かつそれらの要素がバランスよく機能している都市は、世界を見渡してもそんなに多くはないと思うのです。そんな街に住む友人たちと会えるのが、東京出張の何よりの楽しみです。

白紙の状態から作り上げた“未来のホテル”の姿

6月11日、〈虎ノ門ヒルズ〉の高層階に〈アンダース 東京〉がオープンしました。〈アンダース〉は私たちハイアットグループのホテルの中で2007年に誕生した新しいブランド。東京の〈アンダース〉は世界で12軒目です。私たちがお迎えするゲストは、社会の変化と共に常に変わり続けている。それなのにホテルの側は変わらなくていいのか？ 未来のホテルとはどんな姿をしているのか？ 〈アンダース〉は、そんな思いを抱いて、まったくの白紙の状態から作り上げたホテルです。予約して、レセプションでチェックインをして、荷物を運んでもらって、ルームサービスは電話で頼んで……というこれまでのホテルのシステムに私たちは慣れている。でもすべてをいったんリセットして考えてみると、旧来の形だけがベストではないことが分かってきたんです。

大切なのは、それぞれのゲストが求める“体験”を

提供できること。ゲストが忙しいビジネスマンならば、チェックインなどの手続きはなるべく簡略にする必要があるし、初めてその土地を訪れる観光のお客様ならば、何がしたいのかを探り出し、適切な情報をお渡ししなくてはいけない。つまるところ〈アンダース〉は、よりフレキシブルで親密なサービスのできるホテルなのです。“ANDAZ”はヒンディー語で、“personal style, as you like (あなたの意のままに)”という意味なんです。

そういう未来的な存在である〈アンダース〉が出来たのが虎ノ門というエリアであることに驚きを持たれる方もいらっしゃるかもしれません。でも、私たちは常に時代の少し先を見ていなくてはならない。最初は「なぜここに？」という場所であったのが、5年、10年の後に街が変化し、「やっぱりここしかないよね」というエリアになる例を、これまでに世界でいくつも見てきました。やはり私たちのグループである〈グランド ハイアット 東京〉がある六本木もそのひとつ。11

年前に登場した〈六本木ヒルズ〉によって街が大きく変わりました。〈虎ノ門ヒルズ〉もそういう可能性を秘めた場所だと確信しているんです。〈六本木ヒルズ〉が東京の21世紀への転換点を象徴する存在だったとしたら、〈虎ノ門ヒルズ〉は、さしずめ次の「オリンピック時代」を象徴する存在。これからの東京の鍵となっていくのだと思います。

グランド ハイアットとアンダース、それぞれの役割

六本木には〈グランド ハイアット 東京〉が、虎ノ門には〈アンダース 東京〉がと、今後は近隣のエリアに私たちのグループのホテルが2つ共存することになりました。片や〈グランド ハイアット 東京〉は家族連れやグループ、旅の安心感を何より大切にする方々に、片や〈アンダース 東京〉は、好奇心旺盛で、自分のライフスタイルを確立している高感度な人々に特に愛されていくのではないのでしょうか。どちらのホテルにも、ゲストの視点に立つて最高のクオリティのサービスを提供する“ハイアットのDNA”が息づいているのは変わりのないこと。私にとっては甲乙などつけないのできない、子どものような存在です(笑)。

私自身の旅は、ともかく忙しいですね。以前、妻とニューヨークの〈アンダース〉に3、4泊した際に、ちょっとした実験を試みたんです。何時に起き、どういう風にバスルームを使って、サービスの人間に何を頼んで、どこへ出かけたか……、滞在の間にどこで何をしたかを細大漏らさず書き留める。書き上がったものを妻と比べてみたら、とても同じホテル、同じ部屋に泊まっているとは思えないほどに重なるところがない。私は、分単位のスケジュールで動いていますから、何より効率と機能重視にならざるをえないんです。パッキングも早いですよ。3週間の出張の支度なら、今では15分です。

プリツカー賞と日本の建築

〈虎ノ門ヒルズ〉と〈アンダース 東京〉のオープンを見届けにきた今回の東京滞在の後には、アムステルダムへ向かいます。私の父が1979年に始めた建築賞である、プリツカー賞の授賞式があるのです。ご存知の通り、今年の受賞者は坂茂さん。災害に遭った人々のもとにいち早く駆けつけて彼らに手を差し伸べる坂茂さんの建築が人々に与えるのは“希望”なのだと思います。建築を社会に還元していく彼の姿勢には心から感服しています。先日、過去のプリツカー賞受賞者に日本人の受賞者が多いのはなぜかと聞かれて、理由を知らないのに思い当たりました(笑)。宮大工の素晴らしい技術に代表されるような長い職人の伝統、さらに、折り紙、生け花、盆栽などが現すような細部の美への眼識。その2つが一体となって、日本の建築のレベルを押し上げているのではないかと思います。

プリツカー賞のこともありますから、日本、そして東京には強い結びつきを覚えます。常に変化を続けるこの街で、次に来る時にはどんな驚きに出会えるのか、本当に楽しみです。

Thomas J. Pritzker | トーマス J. プリツカー
ハイアット ホテルズ コーポレーション会長/プリツカー財団会長。生まれも育ちもシカゴ。学位もシカゴ大学大学院で取得し現在もシカゴに暮らす。考古学研究をライフワークとし、30年以上にわたって西ヒマラヤへの研究旅行を続ける。なおプリツカー賞を受賞した日本人建築家には、1987年の丹下健三氏、93年の槇文彦氏、95年の安藤忠雄氏、2010年のSANAA(妹島和世氏と西沢立衛氏)、13年の伊東豊雄氏、そして14年の坂茂氏がいる。

GRAND HYATT TOKYO

東京を牽引するイノベティブな街と共に歩む、
外資系ホテルのパイオニア。

〈六本木ヒルズ〉のオープンにより、大人の夜の遊び場というイメージが強かったこのエリアは大きな変化を遂げた。世界を牽引するグローバル企業が集まるビジネス拠点として定着するとともに、国籍や年代性別を問わず多種多様な人たちが暮らす居住空間としても高い人気を誇るエリアとなった。

さらに都心の高層階という、世界でも稀なロケーションにある〈森美術館〉や〈21_21 DESIGN SIGHT〉〈国立新美術館〉が誕生。現代アートのギャラリーも次々とスペースを構えるようになり、今や東京随一のアートエリアを形づくっている。アート鑑賞はもとより、ショッピングに、デートや家族揃っての外出にと、あらゆる人々が、あらゆる目的で訪れることのできるエリアだ。

その中心的存在を担う〈六本木ヒルズ〉を背にして立つ〈グランド ハイアット 東京〉。すべて直営となる10のレストラン&バーを持ち、客室や宴会場の選択肢も豊富であればこそ、一步でも足を踏み入れれば誰もが自分なりの

楽しみを見つけることができる。そんなイノベティブなホテルが、エリア全体の、ビジネスや観光の拠点としての存在感を強めている。

住み、働き、憩い、遊び、学ぶ。人の営みに必要なすべてが、グローバルに、よりクリエイティブかつより新しいかたちでこの街には揃う。東京の都市の最先端を走る六本木は、これからも進化を続けていく。

GRAND | HYATT
TOKYO



ROPPONGI



六本木ヒルズの街のキャラクター
ロクロクマ (しゃちょう)
©2003 Takashi Murakami/Kaikai
Kiki Co., Ltd. All Rights Reserved.

- 1 六本木ヒルズ森タワー
- 2 森美術館
- 3 毛利庭園
- 4 六本木ヒルズ けやき坂通り
- 5 アークヒルズ
- 6 東京ミッドタウン
- 7 サントリー美術館
- 8 21_21 DESIGN SIGHT
- A 東京メトロ 日比谷線「六本木駅」
- B 都営地下鉄 大江戸線「六本木駅」

グランドハイアット 東京
 開業: 2003年4月25日
 建物階数: 地上21階 地下2階
 総客室数: 387室
 レストラン・バー: フィオレンティーナ、フィオレンティーナ ベストロープティック、フレンチ キッチン、旬や、六線、オーグド、チャイナルーム、けやき坂、マデューロ
 会議・宴会施設: 13施設
 住所: 東京都港区六本木6-10-3
 Tel: 03-4333-1234

ACCESS ◆東京メトロ 日比谷線「六本木駅」
 1C番出口より徒歩3分/都営地下鉄 大江戸線「六本木駅」3番出口より徒歩6分 ◆首都高直轄倉ランブ、霞ヶ関ランプより約10分/成田空港より、所用時間約90分/羽田空港より、所用時間約40分

ANDAZ TOKYO

未来の東京のハブとなるエリアに生まれた、
ローカル&パーソナルなホテル。

ANDAZ | TOKYO
TORANOMON HILLS



TORANOMON



虎ノ門ヒルズの街のキャラクター
トラのもん
©皇子プロ
©ヒルズ

- 1 虎ノ門ヒルズ
- 2 新虎通り (環状2号線)
- 3 愛宕神社
- 4 新橋-西新橋の飲食街
- 5 銀座
- 6 浜離宮恩賜公園
- 7 汐留シオサイト
- 8 2020年のオリンピック会場が
集まる東京ベイエリア
- A 東京メトロ 銀座線「虎ノ門駅」
- B 東京メトロ 日比谷線「神谷町駅」
- C 都営地下鉄 三田線「内幸町駅」
- D JR-東京メトロ 銀座線「新橋駅」

アンダーズ 東京
 開業: 2014年6月11日
 建物階数: 虎ノ門ヒルズ
(地上52階建て)の47~52階
 総客室数: 164室
 レストラン・バー: アンダーズ タヴァーン、
 ルーフトップバー、BeBu、ベストリーショップ
 会議・宴会施設: 7施設
 住所: 東京都港区虎ノ門1-23-4
 Tel: 03-6830-1234
 HP: <http://andaztokyo.jp>

ACCESS ◆東京メトロ 銀座線「虎ノ門駅」
 徒歩 5分/日比谷線「神谷町駅」徒歩6分/霞ヶ関
 駅「徒歩8分/都営地下鉄 三田線「内幸町駅」
 徒歩8分/JR「新橋駅」徒歩11分 ◆首都高直轄倉
 ランプ、霞ヶ関ランプより約10分/成田空港より
 約90分/羽田空港より約40分

世界NO.1のホテルデザイナー

トニー・チーへの15の質問。

Q1 それぞれのホテルで手がけたデザインのコンセプトを教えてください。A 〈アンダース 東京〉では、全体のインテリアデザインを行いました。1階の〈ベストリー ショップ〉とビア&バーガー〈BeBu〉、51階のロビー周りやレストラン〈アンダース タヴァーン〉、客室などですね。51階のスタジオ、バーやチャペルのあるルーフトップフロア、そしてスバは緒方慎一郎さんが担当しています。〈アンダース〉は、

ハイアットグループが新たに手がける、従来のホテルよりコンパクトかつ

パーソナルなホテル。同じビル

の中にはレジデンスやオフィ

スも入るビルですし、地

元のコミュニティとよ

り深く結びつくホテル

でもある。ですから、日常の暮らし

に近い感覚を得られるよう考えま

した。〈グランド

ハイアット 東京〉

で私が手がけたのは、主にレストラン

が集まる6階部分。中庭を介して飲食店

が向かい合うあの部分

は、ホテルと六本木ヒル

ズとをつなぐ部分でもあります。ラグジュアリー・ホテル

である〈グランド ハイアット 東京〉

の雰囲気は損なわず、かつ、六本木ヒル

ズを訪れる方々も気軽に入ってこられる雰囲気

を備えていないなりません。特にこだわったのは、中庭

部分をオープンエアにすることですね。光はもちろんのこと、

風が吹く日はそれを頬に感じ、雨が降れば音が聞こえるのは、

贅沢な食事の体験にどうしても必要なことだと思いました。

Q2 虎ノ門と六本木という、それぞれの立地エリアの特徴を

どう観察されていますか？ A 東京は伝統的な顔と現代的な

顔の両方を持つ都市だと思います。六本木は、森ビルの再開発によって新たに生まれ変わった近代都市。虎ノ門は、古くからの文化が残る街ですが、地域の掘り起こしや活性化、そのブランド化が行われ始めているエリアだと思います。Q3 そうしたエリアの特徴をデザインにどう落とし込みましたか？ A

〈アンダース 東京〉では、“記憶”をデザインに持ち込んでいます。

“記憶”とは日本らしい伝統であり、アットホーム

な空間でもある。たとえばエントランスホ

ールをぐるりと囲む大きなドアは、日

本の障子にインスピレーション

を得たもの。一方の〈グランド

ハイアット 東京〉では、た

とえば〈オークドア〉でテ

ラス席を設けるなどし

て、インターナショナルな雰囲気

を演出しました。デザインに

違いはあるものの、

どちらも異なる東京

の一面を切り取り、

デザインに“翻訳”し

ていったものです。Q4 それぞれのホテル

に関して、どこまで

デザインにかかわられて

いますか？ A デザイナー

とは、空間を全体として捉え

る存在です。インテリアの細部は

もとより、そこに置かれるアートワ

ーク、どんなファッションの人がそこに集

ことになるか……といったことまで、トータルで

考えています。Q5 素材使いでこだわった点を教えてください。

A 〈アンダース 東京〉のデザインコンセプトは「記憶

(思い出)」です。たとえば日本の素晴らしい文化である“折り

紙”。一折すごごとに記憶が増えていきますよね。〈アンダース

東京〉での新たな1日が、東京の記憶(思い出)の新たな1ページ

になるようにという思いを込めて、和紙はもちろんのこと、日

世界中のホテルやレストランのインテリアデザインを手がけて注目を集めるトニー・チーさんに、〈グランド ハイアット 東京〉と〈アンダース 東京〉のデザインの秘密をうかがいます！

本産の木など、記憶を宿してくれるような素材を使っています。有機的な素材へのこだわりは、他のプロジェクトでも強いですね。〈グランド ハイアット 東京〉でも木や石など自然を感じる素材を多く利用しているんです。そういった素材には内面的な美しさがある。その美しさは時間の経過と共に熟していくのです。Q6 〈アンダース 東京〉の見どころを教えてください。

A 森ビルのヴィジョン、そして彼ら

が行うプロジェクトのスケールの大きさ

には、常に刺激を受けてきました。

〈アンダース 東京〉は、都心の高

層階というロケーションそ

のものが見どころと言え

るかもしれませんね。今

回のプロジェクトは、

大空間を使ってアッ

トホームな空間を

デザインするとて

もよい経験になり

ました。そのふた

つは通常は相容れ

ない概念。このホテル

で、それを融合す

る機会を与えてもら

ったと思います。Q7

NYと東京の違いはど

こですか？ A 喧騒のニ

ューヨークに比べて、東京

は静かですね。Q8 両ホテル

とも、アートがとても印象的に配

されていますね。あなたにとってアート

とは？ A スタッフにはいつも「アートとは

エモーションだ」と言っています。アートは私たちそれぞれ

の内側からわき上がってくるものだし、私たちの行動のすべ

てにアートの要素があると思うのです。日本人女性が着物を

着るのも、とてもアーティスティックな表現だと思いますよ。

Q9 あなたにとってホテルとは？ A ホテルで過ごす時間は

仕事上の勉強になるだけでなく、人生そのもの。Q10 あなたに

とってホテルのデザインとは？ A パブリックとプライベートを同時にデザインすることのできる特別な場所。Q11 好きな建築家は誰ですか？ A キュビズムの大ファン。イタリア

人建築家のカルロ・スカルパ(1906-1978年)が好きですね。

Q12 あなたの自由で驚くべき発想は、どうやって生まれるの

ですか？ A アイデアは常に変わり続けるものですし、それ

れに特定のインスピレーションソースがあるわけ

でもないんです。朝目を覚ましてから

夜寝るまで、私たちはヒントになる

ものごとに取り囲まれている。

それらがさまざまなかたち

でデザインに反映されて

いくのです。Q13 猫を飼

われているそうですが、猫のどこが好きで

すか？ A 実は自宅

では犬を飼っている

犬派なんですよ！

アトリエで猫を飼

っているのは入居

当初にネズミが出

たから。多くの猫を

飼っている母に譲

ってもらったのです。見

事に一網打尽にしてく

れましたよ(笑) Q14 どう

してインテリアデザイナー

になったのですか？ A インテ

リアデザインは、人々の暮らしに変

化をもたらすことができるからです。

Q15 それぞれのホテルに今後望むことは何で

すか？ A どちらのホテルにも言えることは同じ。時代

を超越したホテルに進化して欲しいと思っています。ホテル

を訪れるのが今日であろうと、2世代後であろうと、エン

トランスを通してホテルの空間を体験する人々に、価値ある思い

出を提供し続けて欲しい。ホテルが成熟していくにつれ、それ

が醸し出す質はより美しく魅力的なものになっていくでしょう。

15 Questions to Tony Chi

TONY CHI | トニー・チー
tonychi and associates 創立者兼代表取締役。1984年の設立以来、ホテルやレストランなどのプランニング、コンサルティング、インテリア、建築、ランドスケープデザインやアーバン プランニングの開発から施工までを手がける。〈グランド ハイアット 東京〉では、レストラン&バー「オークドア」、中国料理「チャイナルーム」、鉄板焼「けやき」、バー「マデロ」のインテリアをデザインしている。

GRAND HYATT TOKYO

Photographs by Hiromi Asai
*表示料金は税・サービス料など別

世界のセレブが愛する、多彩な魅力が詰まった、大きな宝石箱のような場所。



MADURO / マデュロ

ガラスの爽やかな空間に、何時間でも座っていられそうなホールド感抜群のチェアとテーブルが並ぶこちらのバーは、大人のための社交場といった雰囲気。海外から迎えるミュージシャンのライブを聞きながら、酒とシガーを味わえる。コース料理と、シグネチャーであるモヒートを始めとする50種類のドリンク(90分制)が楽しめる「レガロナイト」(女性6,000円、男性7,000円)などのプランも積極的に展開しているのは嬉しい。



NAGOMI SPA AND FITNESS / ナゴミ スパ アンド フィットネス

ホテルゲストとメンバーのみが利用できるこちらは、ジンジャーと柚を配合したオリジナルブランドのオイルなどを使用するトリートメントが人気のスパ、プールとジャグジー、専任スタッフのいるジムを備える。天井を低く抑え、木や石を大胆に使ったインテリアは、おこもり感があり、心から寛げる時間を与えてくれる。

後藤順一

副総料理長・パストリー/ペカリー担当

「自分が美味しいと思うものをただコツコツ作るだけ。チームから国際コンクールの優勝者が何人か出ているのは秘訣があるのかと聞かれたりもするけれど、特別なことは何もないんだよ(笑)。まっとうに日々の仕事に向き合うだけ。今年の夏も旬の果物を使ったペリースが出るので(写真右)、味わった人に喜んでもらえればそれでいいです」



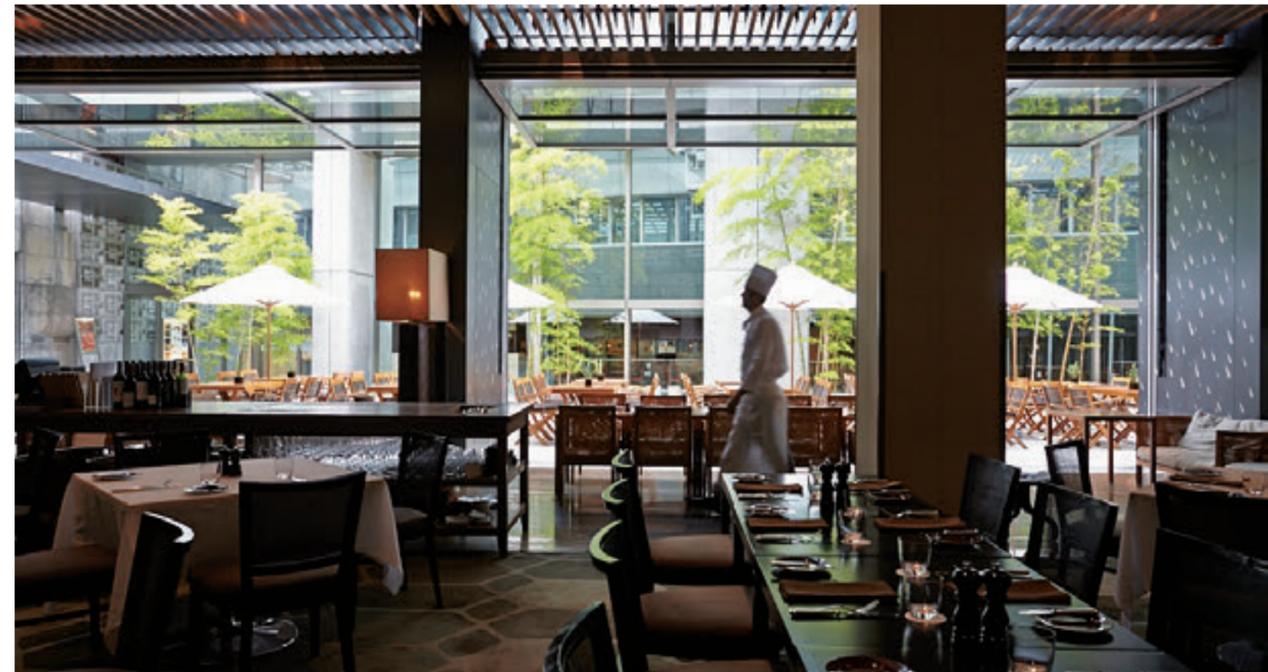
FIorentina Pastry Boutique / フィオレンティーナ パストリーブティック

常時約30種のケーキやスイーツ、焼きたてのパンが並ぶ1階のショップ。手頃な値段のケーキひと切れに至るまでホテルの優秀なチームによるもの。気軽に「グランド ハイアット 東京」クオリティを味わえる場所だ。写真上《サマーペリース》全8種各700円は8月末まで販売。毎年人気の涼やかなスイーツで、6点は今年の新作。館内レストランの料理長とのコラボによるカレーパン6種各290円も、毎月2種ずつ、9月末まで販売。



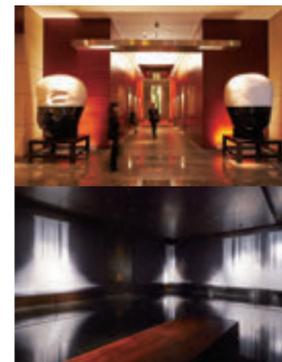
THE OAK DOOR / オークドア

新鮮な素材を、薪を用いる「ウッドバーニングオープン」でダイナミックに焼き上げるステーキハウス。厳選の料理の数々もさることながら、天然石が置かれ緑が茂る中庭に設けられたテラス席の気持ちよさも特筆もの。6階にあるレストラン群はこの中庭を介してつながっており、この「オークドア」では夏の間「サマービアガーデン」を開催しているほか、江戸前寿司「六緑」でも、店の前のテラスで地ビールが楽しめる。都心のただ中とは思えないほど、気持ちのいい風が吹き抜ける場所だ。



ART WORKS / 館内のアート

エレベーターホールの両脇で人々を迎え入れるジュン・カネコの《アンタイトルドヘッド》(写真上)、グランド チャペル・神殿前のホワイエにある千住博の《ウォーターフォール》(写真下)を始め、ホテル内には名だたるアーティストによる作品が200点以上点在。作品はレストランや宴会場など、誰でも鑑賞できるパブリックスペースにも多いが、プレジデンシャル スイートにあるイサム・ノグチの《Folding In & Out》やグランド クラブ ラウンジに置かれた石彫など、限られたゲストだけが見られるものも多いそう。アートを探して館内を巡るのも面白い体験になりそう。ホテルの背後に控える、やはりパブリックアートの多い(六本木ヒルズ)や、エリアに点在する美術館やギャラリーなどともつながって、「アートタウン」としての六本木を形作るのに一役かっている。



SHUNBOU / 旬房

館内にあるすべて直営の10のレストラン&バーは、気軽なカフェからしっとりした雰囲気の江戸前寿司までとバリエーション豊か。日本料理の〈旬房〉では、その日の仕入れによってメニューの変わる「旬彩(三段弁当)」(5,100円)のほか、リピーターの声を反映した、「もろみ豚の生妻焼き」(3,350円)や「旬房カレーうどん」(1,550円)なども人気。5つある個室は接待などにも重宝する。



阿部 佳

コンシェルジュ

「私がコンシェルジュ」という職業を知った時、日本にはまだこの職業はありませんでした。日本では最初の頃のコンシェルジュの一人です(笑)。引き出しの多さはもちろんですが、ルーティンのご要望にもコンスタントに対応できることも重要だと感じます。常にお客様の気持ちで考える力が必要なんです」



ステファン・フーシェ

総料理長

「レストランや宴会場など、ホテルで提供するすべての料理のクオリティを管理し、開発にも加わるのが私の仕事。200名以上の多国籍のキッチンチームと共に、常にクリエイティブな「食文化の発信基地でありたい」と思います。今楽しみにしているのは、9月にリニューアルを予定しているキッチンを備えたイベントスペース。パーティーでできることがぐんと広がると思いますよ」



GRAND CLUB LOUNGE / グランド クラブ ラウンジ

国内外のゲストが行き交うフロントデスク(下)と、グランド クラブ ルーム以上に宿泊のゲストのみが利用可能な「グランド クラブ ラウンジ」(上)。後者でもチェックイン/アウトが可能のほか、朝食やイブニングカクテル、そして各種ドリンクが提供される。付属のミーティングルームをビジネスに利用するゲストも多い。



本郷潤二

副総支配人 執行役員

「館内に直営のレストランやバーが10もあること、宴会場などの選択肢も広いことは私たちの強み。でも奮ることなく、常に革新していく立場でありたいと考えています。1,500人以上を動員するディスコイベント「CLUB CHIC」はそんな思いから2005年に始めたもの。「格好い大人の遊び場」としての六本木を目指し、変化を恐れず冒険していきたいですね」

ヴィクター・フォリー

「フレンチ キッチン」マネージャー

「11年前の開業時からこのホテルにいます。当初、ふとした行き違いから怒って帰られたお客様がいたので。自分達が最高と誇るサービスを提供していたある日、その方が申し訳なかったと戻っていらして、以来、料理のセレクトはすべて私任せて、毎日欠かさず通ってくださっています。お客様のお一人ずつにかけがえないつながりを感じていますね」



ダヴィッド・ブラン

副総料理長・西洋料理担当

「自分自身、またスタッフによく言い聞かせているのは、お客様とのコミュニケーションの大切さ。特にうちのホテルはオープンスタイルのキッチンが多いので、料理を適切に説明する能力や、笑顔ややさしい態度が不可欠なんです。さらに私自身は料理教室の開催や、本の出版を通じて、より親しみやすいホテルの一面をお知らせしたいと思っています」



PRESIDENTIAL SUITE / プレジデンシャル スイート

客室は全387室。特に国内外のセレブリティやVIPにも人気でリピーターの多いスイートルームはまた格別。ホテル最上階の21階にあるこのプレジデンシャル スイートは広さなんと約260m。都内のホテルとしては唯一、屋外プライベート温水プールを備えるほか、格段に手触りのいい繊細なコットンを使ったオリジナルのベッドリネン、曲線を用いた落ち着いたあるインテリアと誰にも憧れる一室だ。



ANDAZ TOKYO

Photographs by Satoshi Nagare
except Arnaud de Saint-Exupery & Andrea Lobo by Hiromi Asai
*表示料金は税・サービス料など別

パーソナルで冒険に満ちた旅を 自分らしく組み立てるための特別な場所。



Pastry Shop / ペストリーショップ

(虎ノ門ヒルズ) 周辺の道を行く人の目にも入る、1階のペストリーショップとカフェスペース。季節のフルーツを使ったメニューの中でも、カラフルな色合いも美しいエクレア(ラージサイズ 各490円) は人気。柚やブルーベリーなどいくつもの味が揃う。朝8時から営業しており、ふらっと入ってコーヒーとスイーツでパワーチャージするといったライフスタイルが見えるよう。



GUEST ROOM / ゲストルーム

47~50階を占める客室は全164室。スタンダードルームでも50㎡以上で、大きな円形のバスタブのあるバスルームを備える。トニー・チーのデザインは、無垢木や和紙などの自然素材を使ったり、障子をモチーフにした表現を施したりと、現代の感覚で伝統的な和を解釈したもの。部屋に敷かれたグリーンのカーベットは、「芝生を踏みしめているような感覚を」という意図。下駄を思わせる室内履きや、日本のウイスキーや和菓子が入るミニバーなども、東京の(アンダース)ならではのこだわり。



ART PIECES / アート

ホテルがある土地のローカルリティを重用視し、デザインやサービスにも反映するのが特長の(アンダース)。館内に点在するアートにもそれは現れており、たとえばエレベーター内でゲストを迎えるのはおめでたい鯛や亀をモチーフにした永田哲也の和紙作品。和菓子の木型から丹念に型どって生み出されている。



アルノー・ド・サン＝テグジュペリ
総支配人

「東京の中でも虎ノ門という未来につながる場所に(アンダース)をオープンできたことに喜びを感じます。私たちのもてなしのモットーは、Arrive as visitor, depart as local. 訪れたゲストに、帰る時にはここを地元のように感じていただきたいですね。お客様一人一人のスタイルに合わせたステイの形を、必ず見つけていただきたいと思います」



レイチェル・マクロリー
アオスパ&クラブディレクター

「(AO)のある高層階からの素晴らしい眺めを独占しながらリラックスするときは、かけがえのないものだと思います。また皇居の緑を望むジムには、世界中どこにいても自分のトレーニングプログラムにアクセス可能なテクノジムのARTISラインを日本のホテルで初めて取り入れています。海外を行き来するゲストにも楽しんでいただければ幸いです」



アンドレア・ロボ
フロントオフィスマネージャー

「従来のホテルのようにベル、フロントなどの分業がない(アンダース)。アンダースホストと呼ばれる私たちがゲストのスタイルに合わせたサービスを行います。地元を大切にしているホテルでもありますから、私たちはこのエリアの探検を重ねてきました。私自身は聖母神社の出世の石段の、あの清涼な空気感と背後のストーリーがとても好きです」

ANDAZ LOUNGE / アンダース ラウンジ

ホテルに訪れたゲストを最初にお迎えるのは51階にあるアンダースラウンジ。ロビーの概念を取りのぞいて、フロント、コンシェルジュ、ベルデスクといった区別をなくし、ゲストを迎える場所。和気藟々と語り合える無垢木を使った大きなテーブルと、よりプライベートな雰囲気のソファ座が配されており、スペースの周囲は“障子”をモチーフにした巨大な和紙を使ったドアが囲む。



BeBu / ビブ

新虎通りを前に、地元の人にも人気なビール(Beer)とハンバーガー(Burger)のカジュアルダイニング。くるみ材を多用した温かだが、どこかシャープさのあるデザインはトニー・チーによるもの。日本の食材を取り入れたメニューも多く、上階のホテルの雰囲気を確実に伝えつつも、会社帰りなどに気軽に立ち寄れるオープンな雰囲気。



ANDAZ HOST / アンダース ホスト

フロント、コンシェルジュといった分け隔てがなく、ゲストの求めるサービスをマルチに行う“ホスト”がいるのは、他のホテルにはない(アンダース)の個性。そのホストが行き来する51階の壁面では、小高重光による巨大な組子細工の作品がゲストを迎える。切子の一片一片を手作業で組み上げる、日本の職人技の粋を感じさせる作品。



ANDAZ TAVERN / アンダース タヴァーン

息をのむような眺めが自慢の、51階にあるメインダイニング。主に日本の旬の食材を使用した西洋スタイルの料理をサーブするほか、バー&ラウンジも併設している。吹き抜けて開放感のある空間の天井を埋め尽くすように、うねる木の彫刻は、イギリス人アーティスト、チャーリー・ウィーニーの作品。高温の蒸気がオーク材を曲げながら仕上げていく作品で、この空間のために来日して設置を行ったという。



ROOFTOP BAR / ルーフトップ バー

(虎ノ門ヒルズ)の最上階でもある52階のバー。欧米のバブのように大勢でハイカウンターを囲んで飲めるスペースから、茶室を思わせるようなプライベート性の高いスペース、高層階の眺望も味わえるテラスのスペースまで、気分や相手に合わせて空間を選ぶのも楽しみになりそう。

CHAPEL / チャペル

52階には、SIMPLICITY 緒方慎一郎がデザインを手がけたチャペル。バー、パーティなどに使えるスタジオが点在。フロア全体を庭園に見立て、時を経て風合いを増す素材や植栽を随所に取り入れたという。チャペルの外壁は銅板で包まれており、光の当たり具合で表情を微かに変える。一見すると重厚な雰囲気だが、大きなドアを開けて中へ入ると真っ白な空間が広がる。天井から差し込む自然光が、有機的なカーブを描く空間を照らし、やわらかく神聖な雰囲気を醸し出す。



ENTRANCE / エントランス

1階のホテル専用のエントランスはトニー・チーのデザイン。小さな照明がランダムに配され、自然を感じさせる木が建ち並び、幻想的な森の中にいるかのような。ホテルの外と中の雰囲気のくっきりとした対比が、ゲストの気分を華やいだものにする。

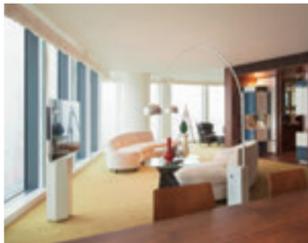
ROOFTOP TERRACE / 52階テラス

最上階の52階のテラスでは、大きな建物にいながらにして風、光、雨を直接に感じることができる(ウェディングやイベントのときにのみオープン)。バーやチャペルの間を縫うように広がる屋上庭園は、多くの樹種が混ざり合い、ゲストが季節の移ろいを愉しめるような仕掛けとなっている。



ANDAZ SKY SUITE / アンダース スカイ スイート

スイートルームはそれぞれ100㎡を超える広さ。中でも最も大きいのが210㎡の「アンダース スカイ スイート」で、東京タワーから東京湾まで、180度以上に広がる東京のビューが自慢。名前の通り空に浮かんでいるような気分を味わわせてくれる。リビング、書斎、ベッドルーム、バスルーム、ゲスト用パウダールームからなるゆったりとした空間は、どこもしっかりと落ち着いた雰囲気。吊揚感とくつろぎとが共生する部屋。



ルーヴルが選んだあかり。



TOSHIBA LED
at
LOUVRE



LEDは東芝

LED照明
E-CORE
[イーコア]

東芝ライテック株式会社
http://www.tlt.co.jp

LED+SMART



HILLS IN FOCUS

最新のヒルズにまつわるニュースをチェック

News

TORANOMON HILLS START 6.11

TEXT BY ASUKA OCHI

未来の東京を動かす、
「虎ノ門ヒルズ」誕生

6年後のオリンピックを目前に、少しずつ姿を変えていく東京。6月11日、そこにまたひとつ、新しいランドマークが誕生した。「Hello,Mirai Tokyo!」のコンセプトを掲げ、東京の新たなビジネス拠点としての役割を果たす「虎ノ門ヒルズ」。建物の地下には、東京の新たな大動脈となる「環状2号線」が走っている。こちらは“東京を世界一の都市に”という意気込みのもと、官民一体で進められた都市開発プロジェクト。道路上に、地上52階建て、高さ247mのタワーが立ち、商業施設、オフィス、住居、カンファレンスなど、最高グレードの施設が集結している。47～52階には、ハイアットグループが手がけたホテル「アンダーズ 東京」が初上陸。また、この場所を起点に沿道や周辺エリアの開発も予定されている。歴史ある虎ノ門の街に新鮮な風が吹き込まれ、人が集い、東京が、日本が、元気になる。未来の東京が「虎ノ門ヒルズ」から始まる。→ P.14でさらに詳しくご紹介



虎ノ門から新橋につながる大規模再開発事業の一環として、戦後もなく始まった都市計画から68年の歳月を経てついに「環状2号線」が開通。道路の上に建築物を建てる「立体道路制度」により「虎ノ門ヒルズ」との一体化が実現した。高層タワーの麓には約6,000㎡のオープンスペースがあり、憩いの場を提供している。

Information

HILLS CARD DEBUT

毎日のヒルズライフをもっと楽しく、豊かに。
“もっと、あなた×HILLS”「HILLS CARD」デビュー



博報堂の永井一史氏によるスタイリッシュなデザイン。108円(税込)で1ポイントが貯まる現金カード(右)の他に、クレジットポイントも同時に貯まるMasterCard付きのクレジットカードカードも(上)。



- 「コミュニティパスポート」をリニューアルし、「虎ノ門ヒルズ」の開業と同時に「HILLS CARD」が新たに登場。「虎ノ門ヒルズ」や「六本木ヒルズ」、「表参道ヒルズ」など、全部で12のヒルズ関連施設の利用でポイントが貯まる。貯まったポイントで交換できる特典も多彩で、お買い物券や「アンダーズ 東京」の宿泊券、映画館・レストラン(対象店舗)で使用できるチケットなど、「HILLS CARD」ならではの豪華なラインナップになっている。
- 対象施設** 12施設で使えます
六本木ヒルズ/表参道ヒルズ/アークヒルズ/虎ノ門ヒルズ/愛宕グリーンヒルズ/元麻布ヒルズ/オランダヒルズ/ヴィーナズフォート/ピラミデ/虎ノ門36森ビル/赤坂榎坂森ビル/平河町森タワー
 - 特典例** ヒルズならではの多彩な特典
1,000ポイント
お買い物券1,000円分等
4,000ポイント
森美術館+東京シティビュー年間パスポート等
- 詳しくはHPで → www.hillscard.com
コミュニティパスポートカードも引き続きご利用いただけます。

TORANOMON HILLS 6.11 START

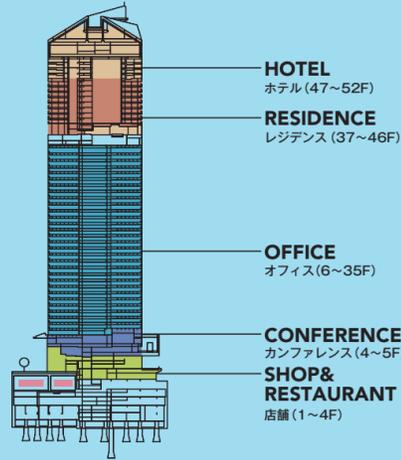
東京の新しいランドマーク、虎の門ヒルズの楽しみ方を紹介

地上52階建ての超高層タワーからなる虎ノ門ヒルズ。足元には、6,000㎡の広大なオープンスペースを有する。芝生広場など豊かな緑が広がる環境に、ホテル、レジデンス、オフィスやカンファレンス、多彩な商業施設が揃う。

FLOOR CONFIGURATION

世界の最先端が揃った、超高層複合タワー

虎ノ門ヒルズの最上部には、ラグジュアリーホテルとして知られるハイアットグループのライフスタイルホテル「アンダース 東京」が日本初進出した。レジデンスフロアでもホテルのサービスを受けられる連携システムは、これまでにない取り組み。オフィススペースは、ビジネスハブとしての高い機能性を持ち、4～5Fにはカンファレンス施設も備えている。24店のカフェ&レストランなどの商業施設は、オフィスワーカーや近隣の方々も気軽に楽しめる。また、建物の地下を走る環状2号線の上部には、広い歩道のある新虎通りが誕生。パリのシャンゼリゼ通りのような居心地のいいストリートを目指し、新たな動きをみせている。



Pick up SHOP & RESTAURANT

毎日を豊かにする 美味しい店、寛げる店

新たなコミュニケーションハブになりそうな「GREEN RATTAN」では、スタンディングスペースで気軽にカクテルと音楽が楽しめる。「THE 3RD」には一人用デスクが併設され、家でもオフィスでもない「サードプレイス」として使うことが出来、「虎ノ門ヒルズカフェ」でテイクアウトしたデリを、オーバル広場でピクニックランチも可能だ。ほかにも様々な魅力にあふれた商業ゾーン。日々を豊かにする新しいスポットを活用したい。



ASIAN RESORT & COCKTAIL HOUSE GREEN RATTAN
500種類以上のカクテルやアジア料理が楽しめるカジュアル&スタイリッシュダイニング ●場所：森タワー 2F ●間：03-5157-5566



虎ノ門ヒルズカフェ
芝生の広場に面したデリススタイルカフェ。イベント貸し切りも可能なワーカースタンド ●場所：森タワー 2F ●間：03-6206-1407



THE 3RD
カフェ、コンビニ、ヘアサロン、シューリペア、フラッシュショップ。5つの店舗がひとつの空間に ●場所：森タワー 3F

EVENT OUR PARKS
開業イベント「OUR PARKS」が開催されているオーバル広場。7/5(土) 18:30～bird+星空観賞会、7/13(日) 12:00～日本フィル金管五重奏団が登場、7/27(日)までは毎週日曜9:30～、朝ヨガが開催される ●間：03-5771-9611

Pick up PUBLIC ART

空間をシンボリックに引き立てるアート

グローバルハブを標榜する虎ノ門ヒルズには、ビジターを迎える玄関口、エレベーターホールに、アジア各国のアーティストが手がけた作品が点在する。圧倒的なエネルギーを感じさせるジャン・ワンの壁画、流れやうねりを表現したサンクワックの壁画……。空間に彩りとリズムを与えるこれらのパブリックアートは、カルチャーの発信地としての役割を担う虎ノ門ヒルズをシンボリックに引き立て、訪れる人々の記憶に残っていく。



左) 日本の若手アーティスト内海聖手が手がけた壁画は、総幅約27mの巨大な作品。下段左) 時代のうねりを感じさせる力強い作品は、韓国人アーティストのサンクワックのもの。下段右) 中国を代表するアーティストであるジャン・ワンの作品は、巨大な岩を高さ20mから落下させ、その爆破された様子をステンレスチールで再現。



ROPPONGI HILLS SUMMER 2014



7.19 SAT.～8.24 SUN. 六本木ヒルズの夏イベント開催

毎年開催しているキッズワークショップや盆踊り等に加え、テレビ朝日とタッグを組んだ新プロジェクトが始動。食べて、遊んで、学んで……六本木ヒルズで、夏をめいっぱい楽しもう。

テレビ朝日・六本木ヒルズ夏祭り

SUMMER STATION

PHOTOGRAPH BY JUN FUJIWARA TEXT BY ASUKA OCHI

スーパーバイザー加地倫三氏(テレビ朝日)に聞く SUMMER STATIONの見どころ

テレビ朝日と六本木ヒルズがタッグを組んで初開催する37日間の夏祭り「SUMMER STATION」。無料の音楽ライブや戦隊ショー、番組の公開収録など、祭りに相応しい様々なイベントが企画されている。今回、テレビ朝日開局以来となるこの一大イベントにスーパーバイザーとして関わるのが、『アメトーーク!』などの人気番組をプロデュースする加地倫三氏。「イベントでハズせないのが“食”コンテンツ。大屋根プラザのSUMMER STATIONフードコートでは(ポトサラダ芸人)など『アメトーーク!』の番組で取り上げたネタを元にグルメブースを出します。強引に笑いだけが立つようなものでなく、きちんと美味しいものを考えています。メニュー案を100個以

上考えたり、値段を話し合ったりと、テレビ局らしからぬ会議を重ねていますよ(笑)」。他にも、毛利庭園が夜には壮大なウォーターアートの見られる水上ビアガーデンになる等、食だけでも充実の内容だ。「夏祭りを考えるにあたって重視したのは、六本木ヒルズが持つ大人のイメージを壊さず、テレビとバランス良く共存すること。普段の放送と違う角度から視聴者の方と触れられるのも楽しみです」

Rinzo Kaji 加地倫三さん

テレビ朝日ゼネラルプロデューサー。入社後、スポーツ局を経てバラエティ局へ。現在、『アメトーーク!』『ロンドンハーツ』『坂上忍の成長マン!』の総合演出・ゼネラルプロデュースを担当している。



KIDS' WORKSHOP

ドキドキ、ワクワクな体験がいっぱい! ここにしかない、夏休みの特別授業



子どもたちの創造力を育むキッズワークショップが、今年も7/19(土)～8/24(日)の間、開催される。アカデミーヒルズ理事長の竹中平蔵氏、ロボットクリエイターの高橋智隆氏ら多彩な講師陣が「学び」を子どもたちに伝える『アカデミーヒルズ サマースクール』や、弁護士事務所内での模擬裁判、ショコラティエ体験等、普段の勉強と一味違う体験ができる。申し込み・詳細は → www.roppongihills.com



EVENT MAP



Summer Station

テレビ朝日の人気番組と連動して、六本木ヒルズ各所でイベントを開催。番組公開収録、無料の音楽ライブ、アニメ・ヒーローショーなど、盛りだくさん。

- 1 SUMMER STATION LIVEアリーナ
- 2 水上プレミアムガーデン
- 3 番組アトラクション
- 4 66ドラえもんひろば
- 5 SUMMER STATION フードコート
- 6 かき氷コレクション
- 7 アートアクアリウムステーション

Kids' Workshop

キッズワークショップ 詳細は左記ご参照ください。※⑧はメイン会場。ほかにも六本木ヒルズ内各所で開催されます。

Roppongi Hills Bon Odori 2014

1 六本木ヒルズ盆踊り2014 毎年恒例の盆踊りが今年も開催される。浴衣に着替えて「六本人音頭」を踊ろう!8/22(金)には前夜祭&練日屋台も。開催期間:8/22(金)～24(日)

Morning T'ai Chi 2014

4 朝の太極拳2014 六本木ヒルズの夏の風物詩、「朝の太極拳」が今年も66プラザに場所を移して開催。開催期間:7/26(土)、27(日)、8/2(土)、3(日)、9(土)、10(日)

詳細は → P.19

「イタリアンカフェ」には「ソフトクリーム」があるのをご存知ですか? ホテルで食べるソフトクリーム、意外な組み合わせのようですが、とっても美味しいんですよ! 暑い夏にぴったりです。

ちなみに「フィオフィニー」のバスター「ナポリタン」なんですよ。懐かしい味が40～50代のお客様に人気です。なんだかちっちゃくて意外です。そんな話をしていたら、わたしも急に食べたくなってました。

@HILLS ヒルズで働く女性たち



ビジネスの可能性は、自らの手で広げる

モバイルオンラインゲームを国内をはじめ世界各国に提供しているKLab。社内外の懸け橋として活躍するふたりが、ワークライフを語る。

PHOTOGRAPH BY
TAKESHI SHINTO
TEXT BY KAZUKO
TAKAHASHI



CONNECT THE WORLD WITH GAMES

創造的でワールドワイド、挑戦し甲斐のある職場です

広告企画を担う村松果さん(写真右)は新卒入社から3年目。すでにキャリアチェンジを経験している。

「初めはユーザーニーズの解析結果などを社内の担当者に提供するデータ分析の部門にいましたが、社外と接点を持つステージで入社後の経験を活かしてみたくて異動を希望しました。チャレンジを歓迎する企業風土にも後押しされました」

社員の平均年齢は30歳。600人あまりいる社員のうち総合職は少数派で、エンジニアやクリエイターなど専門職が大半だ。個性的な同僚に囲まれた職場は常に刺激があると、村松さん。最近従事したのは、世界から2000名を超える有名プロサッカー選手が登場するサッカーゲームの広告戦略で、「企画開発担当者や広告代理店とともにサッカー界のビッグス

ターを起用したプロモーションを実行しました。簡単ではないからこそ挑み甲斐があり、プロジェクトの一員として汗をかくことができて幸せでした」と話す。

若さあふれる同社はスポーツなどのサークル活動がさかんで、村松さんはバスケットボール部に所属。オフの日は部署を超えて社員交流を楽しんでいるという。

金甫現さん(写真左)は、主に韓国市場への自社ゲームの売り込みを担当。直近では、人気リズムアクションゲームの輸出に関する交渉を一手に担い、韓国大手企業との契約を成立させた。

「社内外をつなぐ立場として条件のすり合わせを重ね、契約にこぎつけました。その報告を社に持ち帰ると同僚たちがねぎらってくれて、その日は家に帰ってもうれし涙が止まりませんでした(笑)」

同社は、韓国、中国、アメリカなどからグローバルに人材を登用。シンガポール、フィリピン、サンフランシスコ、上海と、海外にも複数の拠点を持つ。

「私は幼少期を日本で、中学から大学ま

でを韓国で過ごし、大学卒業後、日本企業に就職し、昨年KLabに転職しました。無類のゲーム好きで、日本と韓国のゲーム文化を肌で感じてきたので、今の職場はその経験を存分に活かせる最高の環境です。将来は、韓国のゲームを日本のマーケットで紹介するなど、海外コンテンツの発掘にも尽力していきたいです」

創造的でワールドワイドな職場においてビジネスの可能性をアグレッシブに切り開く姿が印象的な、村松さん、金さん。ともに「仕事が大好き」と目を輝かせる。

Chika Muramatsu 村松果さん

電車の中などでKLabが提供するゲームを楽しんでいる方を見ると本当にうれしい。斬新な広告企画を通じて、ゲームの魅力を伝えていきたいです。

Kim Bomim 金甫現さん

結婚しても仕事を続けたいと思っています。KLabは「育児後復帰支援制度」など、女性のキャリアサポートが充実しているの、その点も転職時のポイントになりました。

Information | KLab株式会社

2000年の設立から今日に至るまで、常に新しいことに挑戦し、新陳代謝し続けることで発展・成長してきた。現在はスマートフォン向けアプリを中心にモバイルオンラインゲームの企画・開発を行う。近年は海外現地法人を設立し、日本国内のみならず海外各国へも積極的にゲームを提供するなどグローバルな展開を加速している。



エスカレーターに洋装、ハイハイシューズ、共通点は何かでしょうか？ 実は全部、フレンチの食材なんです。①ランド、ハイアット東京、レストラン、フレンチキッチンに飾られた大きなオフェンは、ロバート・クオオさんの作品です。

EVENT CALENDAR 7.1 → 8.31

六本木ヒルズ総合インフォメーション
www.roppongihills.com
☎ 03-6406-6000

表参道ヒルズ総合インフォメーション
www.omotesandohills.com
☎ 03-3497-0310

アークヒルズインフォメーション
www.arkhills.com

虎ノ門ヒルズインフォメーション
www.toranomonhills.com

六本木ヒルズ

開催中 - 8.3 SUN.	Entertainment Activity	開催中 - 8.31 SUN.	Culture	7.5 SAT.	Entertainment Activity
	2014 FIFA World Cup Brazil™ STADIUM 6/12(木)に開幕した「2014 FIFA ワールドカップ ブラジル」に合わせて、特設カフェがオープン。試合映像や過去の名シーンが流れるカフェでは、アディダスをはじめ2014FIFAワールドカップ ブラジルのサポート企業によるイベントも開催！ ●場所：ヒルズカフェ/スペース ●時間：11:00~23:00 ●入場：無料 ●問：0120-810-654(アディダスグループお客様窓口 9:30~18:00 ※土日祝除く)		ゴービトウインズ展:こどもを通して見る世界 様々な境界を自由に行き来する子どもの性質に注目する作家26組の作品を紹介します。●場所：森美術館(森タワー53階) ●時間：10:00~22:00(火曜日は~17:00) ●料金：一般1,500円ほか ※展望台 東京シティビューにもご入館可 ●問：03-5777-8600 (ハローダイヤル) ※テリ・サハ・ハード/アレクサンダー・ビルヒラー(エイト) 2001年 ビデオ3分 35秒(ループ) Courtesy: Tanya Bonakdar Gallery, New York		第64回「社会を明るくする運動」青少年健全育成大会 in 六本木 犯罪や非行のない理想的な未来を築くための「社会を明るくする運動」が六本木ヒルズで開催されます。式典や地域の子供たちによる演奏やパレードを実施します。●主催：「社会を明るくする運動」港区推進委員会 ●場所：六本木ヒルズアリーナ ●時間：13:30~(パレード 16:00~) ●入場：無料 ●問：03-3578-2379(港区保健福祉支援係) ※当日の問い合わせ：03-5472-3710
	特別展 ガウディ×井上雄彦 -シンクロする創造の源泉- スペインの建築家アントニ・ガウディの偉業を約100点の資料から紐解くほか、漫画家 井上雄彦がガウディの人間像やその物語を約40点の作品に描き下ろす展覧会 ●場所：森アートセンターギャラリー(森タワー52F) ●時間：10:00~20:00(最終入場19:30) ●料金：一般1,800円ほか ●問：0570-063-050(10:00-20:00 ローションチケット内) ●詳細：www.gaudioue.com ※「ガウディファミリー展覧会」制作：サクラダ・ファミリア 監修：建築家 Juntia Constructora del Templo de la Sagrada. All rights reserved. 井上雄彦「ネット」2013年 ©I.T. Planning		テレビ朝日・六本木ヒルズ夏祭り SUMMER STATION テレビ朝日の「番組コンテンツ」と「番組グルメ」による、六本木ヒルズ初の大型街フェスが開催されます。アリーナでは、連日ファミリー向けのイベントを開催する他、夕方にはLIVEも実施。毛刈庭園、大屋根プラザ、66プラザなどでもさまざまな催しが目白押し。テレビと街のコラボイベントをぜひお楽しみください。●場所：六本木ヒルズ各所 ●時間：11:00~23:00 ● 問：0570-068-555 ● 詳細：www.tv-asahi.co.jp/, www.roppongihills.com		KIDS' WORKSHOP こどもたちの想像力や好奇心を育てるキッズのためのワークショップが、今年もパワーアップして登場します。六本木ヒルズ内の企業やショップ&レストラン、関連団体が開催する特別プログラムに加え、通常は非公開の屋上庭園でもワークショップを実施。事前応募制のプログラムもご用意で皆様のお越しをお待ちしています ※期間中、随時開催 ●場所：六本木ヒルズ各所 ●詳細：www.roppongihills.com ※6/28(土)から申込受付開始
	7.25FRI. 8.2SAT. 8.22FRI.		7.26, 27, 8.2, 3, 9, 10		8.13 WED. - 8.15 FRI.
	六本木天文クラブ 星空観察会 星さえ見えなと思われがちな明るい都心にあつて、屋上展望台「スカイデッキ」は宇宙や天文を身近に感じただけでなく最高のシチュエーション。普段は入れないヘリポートに本格的な天体望遠鏡が設置され、専門家のレクチャーとともに星空鑑賞をお楽しみいただけます ●場所：東京シティビュー スカイデッキ ●時間：20:00~22:00 ●入場：無料 ※展望台・スカイデッキの入館料が必要です ●詳細：www.roppongihills.com/tcv/jp/tenmon.html		六本木ヒルズ朝の太極拳2014 六本木ヒルズの夏の風物詩、恒例の「朝の太極拳」が今年も巨大な蜘蛛のオブジェ「ママン」のある六本木ヒルズの玄関口「66プラザ」に場所を変えて開催。爽やかな日差しのもと健康的な朝を過ごませんか。複数回参加された方には六本木ヒルズのレストランで利用できるチケットのプレゼントもご用意 ●場所：66プラザ ●時間：7:30~8:15 ●料金：無料 ●問：03-6406-6000 ●詳細：www.roppongihills.com		サマー スカイ プフフェ 東京の景色を眼下に、大人からお子様までお楽しみいただける料理の数々がbuffetスタイルでご用意。森美術館や展望台をお楽しみいただいた後にぜひお立ち寄りください ●場所：六本木ヒルズ森タワー51F ●時間：ランチ11:30~15:00/ディナー17:00~21:00 ●料金：ランチ 大人3,500円、小学生1,750円/ディナー 大人5,000円、小学生2,500円(税込) ※小学生未満無料 ●問：03-6406-6050(スカイbuffet事務局 10:00~18:30)
	8.22 FRI. - 8.24 SUN.		8.29 FRI.		開催中 - 7.13 SUN.
	六本木ヒルズ盆踊り2014 毎年恒例の盆踊りが今年も登場です。浴衣を着替えて「六本木音頭」を踊りましょう。8/22(金)には前夜祭と練日舞台も！夏ならではの体験を満喫してください ●場所：六本木ヒルズアリーナ ●時間：8/22(金)前夜祭・練日舞台17:00~21:00 ※盆踊りはありません 8/23(土)・24(日)練日舞台15:00~21:00 ●盆踊り17:00~20:00 ●問：03-6406-6000 ●詳細：www.roppongihills.com		CLUB CHIC 2014 summer ~Greatest 70's Disco Hits & Soul Classics~ 70'sダンスクラシックをシックにアレンジし、ノンストップでお届けする大人気の70's Discoイベントが今年も開催されます ●場所：グランドボールルーム(グランドハイアット東京) ●時間：20:00~midnight(最終入場23:30) ●料金：VIP席25,000円、一般席15,000円 ※フリードリンク、VIP席はアンリ ジョーのフリードリンク付 ●問：03-4333-8838(イベントプランニング) ●詳細：restaurant.tokyo.grand.hyatt.co.jp		ROPPONGI HILLS SUMMER SALE 2014 今年の六本木ヒルズのセールでは、メンズ・レディース・キッズアイテムやライフスタイル雑貨など約80店舗が30~70%のオフを体験！なお期間内、レストランカフェでは夏にぴったりのオアシスメニューをご用意。お買い物もお食事もお楽しみください ●場所：六本木ヒルズの夏セールをお楽しみください ●場所：六本木ヒルズ全館 ※一部店舗を除く ●時間：11:00~21:00 ●問：03-6406-6000 ●詳細：www.roppongihills.com



千住博さん、和泉正敏さん、イサム・ノグチさん、ジュン・カネコさん、ロバート・クオオさん、ランド、ハイアット東京、では、世界のアーティストによるコンテンポラリーなアート作品約200点と出会えます。

最高の賞賛は、
世界のほうからやってきた。



世界の頂点へ
HIBIKI
SUNTORY WHISKY
with 若冲



ストップ! 未成年飲酒・飲酒運転。妊娠中や授乳期の飲酒はやめましょう。
お酒はなによりも適量です。

「響30年」は年間数量限定品です。 作品は全てエソコ&ジョー・プライスコレクション サントリー酒類株式会社 suntory.jp/hibiki 水と生きる **SUNTORY**

URBAN FIELDWORKER ②

SHUNSAKU MIYAGI

landscape designer

Photographs by Katsumi Omori Text by Nobuko Suzuki

新しい都市と緑、その関係は？

京都・宇治の平等院の塔頭に生まれ育ち、
ランドスケープデザイナーとして世界的に活躍する
宮城俊作さんに、都市と自然と景観について聞きました。



— 近年、東京の再開発プロジェクトでは、新しい都市のなかにもどかのように緑を取り込んでいくのが重要な課題になっていますね。

M ランドスケープデザインで重要なのは、緑に土地とどういう関係性を持たせるかです。たとえそれが中空に浮いている屋上のような場所だとしても、単にテラスだけ、屋根だけをとりあえず緑で覆っておけばいいということではない。

先日オープンした虎ノ門ヒルズでいえば、最上階から東京湾の方向を眺めると、愛宕神社、愛宕グリーンヒルズ、芝の増上寺と、緑のネットワークが繋がっている。虎ノ門ヒルズの緑地でも、従来からある自然と建物や敷地を同化させる取り組みがなされているように、植物を存続させる土壌やそれを取り囲む環境までを含めたその土地独自の「植生」を再現し、成立させることが重要です。

私自身がデザインを担当した都内のプロジェクトで言えば、永田町の山王日枝神社に隣接するザ・キャピトルホテル東急のランドスケープデザインでは、歴史的に継承されてきた周辺の環境とホテルの景観の同化に取り組みました。植物だけでなく、水や土や大気、さらには土壌生物相をはじめ昆虫や鳥類を含む地上の動物相の生態環境にまで及ぶ環境を、植物と一体的に創出しようという試みですね。

— 未来の東京に、そんなふうにもその土地独自の植生がよみがえっていくとしたら、楽しみです。

M 江戸時代から歌川広重が浮世絵に描いたような「名所」と呼ばれる場所がありますね。そのような名所は、21世紀の現代においても新たに見いだされています。ただ、それらは脈絡もなく生み出されるのではなく、その土地ならではの環境や歴史が作用している。その脈絡や文脈をつなげていくことが、私たちランドスケープデザイナーの仕事に期待されていることではないかと思うのです。

— 近年、パワースポットや登山ブームなど、日本人の自然に対する意識が高まってきているようにも感じます。

M 私は自分のデザインを説明する際、「緑化/green」という言葉はできるだけ使わないようにしています。この言葉につきまとう緑色の表層的なイメージが強すぎるからです。その代わりに「Re-vegetation」という言葉を用いて、植生を再生させることを強調しています。



宮城 俊作
1957年京都府生まれ / ランドスケープデザイナー、奈良女子大学大学院環境学専攻教授、設計組織 PLACEMEDIA パートナー、京大大学院修士課程修了、ハーバード大学デザイン学部大学院修了。平等院の敷地内にある最勝院に生まれ、ランドスケープデザイナーとして国内外で活躍する。主な作品に、JPタワー（東京）、平等院宝物館（宇治）、グランドハイアット東京（東京）のランドスケープデザインなどがある。

平等院のすぐそばに建つ宮城さんのデザイン事務所の分室(宇治のアトリエ) (設計:長坂大/Mega)。東に開いた大きな窓からはつねに風を流すことができる。西側の前庭では、車を伸び放題にして元来の植生を確認する調査が行われている。

多くの人が自然に目を向けはじめているのも、視覚的に消費する緑だけではなく、五感とともに精神的な充足を得られる緑があることに気づき始めているからでしょう。でもそれは新しい感覚ではなく、日本に暮らす人々が受け継いで来た結びつきに戻りつつあるにすぎない。日本では、自然を維持していく仕組みの中に仏教や神道などはもとより、より広い意味における信仰のようなものが入っていることがよくあります。それと同じことが都心のなかの緑にもあって、今も東京に残っている緑の多くは、精神的で奥深い、それでいてごく身近な自然崇拜の対象であることが多い。

伊勢神宮の式年遷宮にあたった去年、多くの方が参拝に訪れましたが、ちょうどその機に栗生明さんが建築設計した「せんぐう館」というミュージアムが外宮にできました。そのランドスケープデザインを私が担当したのですが、その時に心がけたのは「ずっとそこにあつたかのごとく、ずっとそこにあり続けるように」でした。そのランドスケープを見た人に、「宮城さんがどこをデザインしたか、わからないよね」と言われたのですが、その言葉こそ私としては「してやったり！」なんです(笑)。

新しい東京の緑も、そんなふうにもともとそこにあつたものとして違和感のない形になっていくといいですね。超高層ビルを含むこれからの複合開発は、近世から近代にかけて生み出された江戸の庭園都市を、21世紀の今の技術で再びよみがえらせる試みでもある。その取り組みの中で持続可能な植生づくりをめざしていくことこそ、未来の東京にとってとても価値のあることだと思います。

宮城さんが担当したランドスケープデザインから(写真左より)・・・ザ・キャピトルホテル東急(東京都千代田区/2010年)、グランドハイアット東京(東京都港区/2003年)、伊勢神宮第62回式年遷宮祈念「せんぐう館」(三重県伊勢市/2012年)



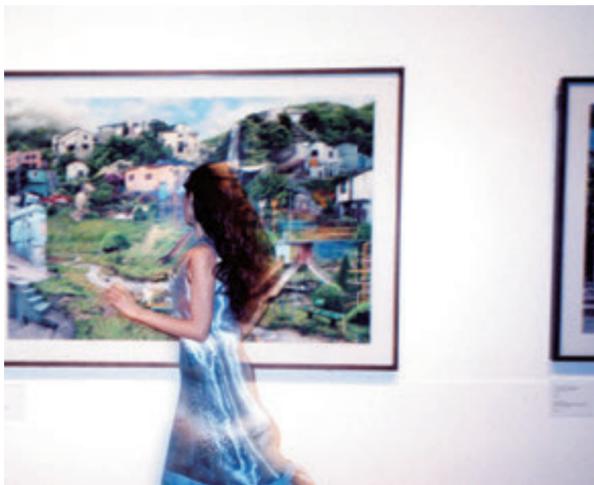
ゴー・ビトウイーンズ展

こどもを通して見る世界

「ゴー・ビトウイーンズ(媒介者)」とは、19世紀後半のNYで貧しい移民の暮らしを取材した写真家ジェイコブ・A・リースが、英語が不自由な両親の橋渡しをする子どもたちを指して呼んだ言葉。そんな、あらゆる境界を行き来する子どもの視点が入った作品を、作家でマンガ家の小林エリカさんが鑑賞。

Photographs by Hiromix
Text by Kosuke Ide Styling by Naomi Shimizu

ワークショップに参加した子どもたちが「じごく」をカタチにした、山本高之《どんなじごくへいくのかな、東京》。



ウォン・ソンウォンの作品は写真によってファンタジックな世界が創りあげられている。



ウォン・ソンウォン「7歳の私」シリーズを鑑賞。

小林エリカ

1978年東京生まれ。作家・マンガ家。「放射能」の歴史を巡るコミック「光の子ども1」(リトル・モア)、作品集「忘れられないの」(青土社)、アンネ・フランクと実父の日記をモチーフにした「親愛なるキティーたちへ」(リトル・モア)など、著書多数。夏に「マダム・キュリーと朝食」(集英社)刊行予定。

ドレス¥42,000、重ねたギャザースカート¥40,000、樹脂モチーフネックレス¥18,000、ハイブモチーフネックレス¥6,000(すべてプティロープノアール03-6662-5436)※掲載価格は、税抜き表記となります。

奈良美智《ミッシング・イン・アクション》の前で。

小さな日常の背後にあるもの、その関係性を描く作品に惹かれます。

今回の展覧会は「こどもを通して見る世界」がテーマで、実際の作品も子どもが登場するものばかりですが、こうして並んだ作品を見てみると、アーティストたちがそれぞれ独自の観点から子どもに着目し、まったく違ったベクトルで表現していることに気付かされます。子どもの持つ感性をテーマにしたものもあれば、子ども同士や大人との関係性を描くものもあり、その中で表現される子どもたちの、子どもっぽい面と大人びた面、ポジティブさとネガティブさなど、とても多様な姿が一堂に会していることがまず面白かったです。

そもそも大人は子どもという存在について、「想像力がある」とか「自由」だとか、一面的な見方で神格化してしまいがちですね。また子どもの方もそうした「大人が期待する子ども像」に縛られてしまう面があって、私自身も小さい頃は、「こうしたら大人が喜ぶんじゃないかな」と空気を読んで発言したり行動したりしてしまうようなところがあったように思います。その点では、子どもの方がある意味で大人以上に「大人」な振る舞いを見せているとも言えるわけです。展覧会を見ていて、そうした複雑に絡んだ大人と子どもの関係性にも思い至ることができました。

国際養子縁組の父娘のポートレートを描いたジャン・オーの写真は、「親子」というものの定義を改めて考えさせると同時に、プライベートな関係を描きながら、彼らを取り巻いている環境そのものが垣間見えてくるような作品です。パレスチナに住む少女が歌い踊る姿を写したスヘル・ナッファール&ジャクリン・リーム・サッロームの映像作品や、太平洋戦争後の戦災孤児を育てた「エリザベス・サンダース・ホーム」の子どもたちを写した影山光洋らの写真もそうですが、ひとりひとりの人間のリアルな生活、小さな日常の背後にある、歴史や社会といった大きな状況をテーマにした作品に惹かれますね。こうした作品に触れることは、一見どこにでもいる「普通」に見える家族であっても、その背後には歴史や社会が大きく横たわっているという現実気付くきっかけになると思います。

展覧会タイトルの「ゴー・ビトウイーンズ」にもあるように、どの作品からも、親と子、過去と未来、異なる文化の間、個人と社会の間などの関係性が浮かび上がってきます。そこに描かれた子どもたちの姿を、ぜひ現代の日本で暮らす子どもたちにも見てほしいですね。彼らがどう受け止めるのか。もしかしたら、私たち大人が考えるのとはまったく違う観点で捉えるのかもしれない。とても興味がありますね。



ジャン・オー「IはIとわたし」No.29) 2006年 タイプCプリント 100x100cm 森美術館蔵、東京



スヘル・ナッファール&ジャクリン・リーム・サッローム《さあ、月へ》2011年 実写/アニメーション7分



影山光洋「エリザベス・サンダース・ホーム」澤田美智恵園長と最初に集められた子供たち)1945年 セラチンシルバープリント 28x35.6cm 東京都写真美術館蔵

えほんのとしよかん

会場には、子どもに大人気の絵本や児童書を約250冊集め、自由に読んでいただけるスペースを設けています。大人も童心に帰ることができる絵本の図書館をお楽しみください。



撮影:須野貴也 写真提供:森美術館

トークセッション

「異文化を生きる子どもたち」をテーマに、詩人のローソン・フサオ・イナダ氏(右)と、出展アーティストであるジャン・オー氏(左)によるトークセッションを7/13(日)に開催。



©The Nature of Words

ゴー・ビトウイーンズ展

こどもを通して見る世界

さまざまな境界を自由に行き来する子どもの性質に注目し、子どもの視点を通して世界を展望しようとする、各国の26アーティストの作品を揃えた展覧会。

●場所: 森美術館(六本木ヒルズ森タワー 53階)

●時間: 10:00 ~ 22:00(火曜日は~17:00)

※入館は閉館時間の30分前まで

●料金: 一般1,500円ほか

「MAMプロジェクト021:メルヴィン・モティ」展にも入館可

●問: 03-5777-8600(ハローダイヤル)

●詳細: www.mori.art.museum



GO-BETWEENS :The World Seen through Children



10年前に入居したナスバウム夫妻は大のスポーツ好き。奥様は今年、同じ様に住むランニング仲間と東京マラソンに参加した。

MORI LIVINGの家の鍵。

都心の上空に鮮やかなスカイラインを描くツインタワーがそびえる愛宕グリーンヒルズ。MORIタワー（オフィス棟）とフォレストタワー（住宅棟）が、荘厳な気配が漂う青松寺を挟む山門のように配置され、都市空間における「職住近接」の思想を具現する。

さまざまなライフスタイルに対応する34タイプの住戸が用意されたフォレストタワーは地上42階建て。このレジデンスの39階で、ナスバウム夫妻は「空に住む」という新しいスタイルの都市生活を満喫している。夫妻はともにアメリカの出身で、2000年に初来日。3年間東京に滞在した後、一旦帰国し、2004年に再来日した際、フォレストタワーに入居した。

「一度、高層階に住んでみたいと思ったんです。それまでタワーレジデンスには住んだ経験がなかったものでね」と、ご主人のロッドさんは話す。赤坂、六本木、汐留などの高層物件を見て回った結果、愛宕フォレストタワーへの入居を決めたのは、住戸、設備、そしてサービスのすべてに魅力を感じたからだという。「まず、部屋の広さと、使い勝手のよい間取りが気に入りました。でも決め手となったのは、最上階に素晴らしいジムがあったことかしら。主人は今も毎日のように通っていますし、私も8年間、同じトレーナーの指導を受けています」と、奥様のナンシーさんは笑顔で話す。ジム、プール、エス

⑩ 愛宕グリーンヒルズ フォレストタワー

新旧の美意識が共存する都心のレジデンス

歴史ある神社仏閣と近代的なビルが織りなす独特な景観が印象的な港区・愛宕エリア。閑静な環境に恵まれたこの地にそびえる愛宕フォレストタワーは、「空に住む」という新しいスタイルの都市生活を提案する

Photographs by Satoko Imazu Text by Seishi Isozaki

オリエンタルなムードが漂うリビングルーム。インテリアコーディネートはすべて、デザインを勉強した奥様が手掛けた。



1 東西のテイストが絶妙に融合するマスターベッドルーム。2 リビングからダイニング、キッチンへと続く窓は、都心の高層ビル群を臨む。3 日本に来てから購入した中国製のチェストは、本棚として利用。4 コーナーごとに趣きの異なるアート作品が飾られ、ギャラリーのような雰囲気が漂う。

て、助かりました」。24時間体制で居住者をサポートするフロントスタッフも皆、英語が堪能で、心配りが細やか。「そもそも、問題はあまり起きない」と前置きした上で、何かあった時の対応が迅速で的確だと評価する。電球が切れた時には、10分後には交換が終了。早朝に聞きなれない物音がした時も、速やかに原因を突き止め、20分後には解決できていたという。「それに皆さん、とてもフレンドリーで話しかけやすいんです。居住者同士の交流もさりげなく支援してくれますし、外国人、とくに来日間もない住人にとっては、非常に頼もしい存在です。遊びに来た友人からも、うらやましがられますよ」

その一方で、各戸のプライバシーは完璧に守られていることも実感している。昨年、棟内で引越しをし、現在のフロアに移ってから間もなく1年になるが、「まだ一度も隣人に出くわしたことがない」と明かす。「私たちは居住者向けのイベントにもよく参加するし、ご近所付き合いを楽しもうのですが、そうではない人もいますよね。このレジデンスは、その両方のニーズに応え、うまく機能していると思います」

この10年で周辺地区の再開発が進み、窓の外に広がる景色は少しずつ変化した。今は、間近に臨む虎ノ門ヒルズの開業を心待ちにしているというナスバウム夫妻。穏やかな「空の住まい」と、さまざまな刺激に満ちた地上を行き来しながら、メリハリのある都会生活を楽んでいる。

テのほか、ダイニングラウンジも併設する「ヒルズスパ」は、住人たちの社交場としても機能する。よく顔を合わせる住人同士が自然と話を交わすようになり、親しくなることが多いという。「以前はルームサービスもよく利用したのですが、最近は出向くことのほうが多くなりました。友人とおしゃべりしたり、テレビを見ながらのんびりしたり、運動以外の楽しみも多いですよ」

棟内にバイリンガル対応の健康相談室があるのも心強いと、ロッドさんは話す。「膝を痛めた時に診てもらったのですが、すぐに慈恵医大での診療を手配してもらえ

愛宕グリーンヒルズ フォレストタワー Atago Green Hills Forest Tower

- 所在地：東京都港区愛宕2丁目3-1
- アクセス：東京メトロ日比谷線「神谷町駅」徒歩5分
都営地下鉄三田線「御成門駅」徒歩4分
- サービス：フロントサービス(バイリンガル対応)、ドアマンサービスなど
- 備考：駐車場あり(空き状況により利用可)。
ペット可(飼育できるペットに制限あり)。
棟内の「愛宕グリーンヒルズスパ」ほか、
都内に5箇所ある「ヒルズスパ」を利用可。

お問い合わせ：森ビル株式会社 住宅事業部
電話：0120-52-4032 www.moriliving.com



空港から直行したスパで、ジェットラグをリセット。
すぐに流れ始めるハワイ時間：PRICELESS



飛行機が着いた瞬間から、特別なホノルルに。
MasterCard® カード会員だけの特典です。
ハワイに到着した朝、スパへと直行。特別に作られたスパ・プログラムが、長旅の疲れを癒し、ゆったり流れるハワイ時間へと心も体もリセットしてくれます。



プライスレス・ホノルル

www.pricelesshonolulu.com

Priceless Honoluluのプログラムは、ご利用規約およびご使用条件に準拠するものとします。プログラムの内容は予告なく変更する場合がございます。本広告は、本特典と類似のサービスが本特典を提供する旅行代理店以外の業者により提供されないことを保証するものではありません。

MasterCard **PRICELESS**
HONOLULU
That's MasterCard. That's Priceless.

本広告の写真はイメージであり、実際に提供される本特典の詳細はこれと異なる場合があります。

② WALK IN THE HILLS AREA

NEIGHBORHOOD

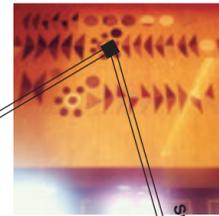
Text by hitoshi okamoto

Illustration by kenichi watanabe

ルート：アークヒルズ ↔ 虎ノ門ヒルズ

歩く人：岡本 仁（編集者）

「点」だけで捉えている限り、街は本当の顔を見せてくれない。六本木に行き、赤坂に行き、虎ノ門に行き、往復を何度繰り返したところで、隣接する3つのエリアの点と点の間にある面白いものは、繋がらないと発見できない。だからたまには目的と反対の方向に足を踏み出そう。



大分県日田市出身の抽象画家・宇治山哲平（1910～1986）の存在と作品を、不動強でつい最近まで知らなかった。サントリーホールロビーにある壁画は、いつか入場無料の「プロムナード・コンサート」の際に鑑賞するつもり。

アークヒルズ サウスタワーの地下にコーヒーキオスクがオープンし、それまで不案内だったエリアに出かける理由ができた。例えば違う路線の地下鉄で行っていた関連のない二つの場所が、新しいポイントが出現するときに線で繋がるといふような幸運があると嬉しい。コーヒーを1杯飲んで虎ノ門へ向け歩き始めた。



サントリーホールの屋上にある「ルーフガーデン」は非公開だが、ときどき見学できる日もあるようだ。きちんと調べていつかは中に入りたい。さて、またコーヒーキオスクに戻り、コーヒーを1杯飲んで帰ろうか。



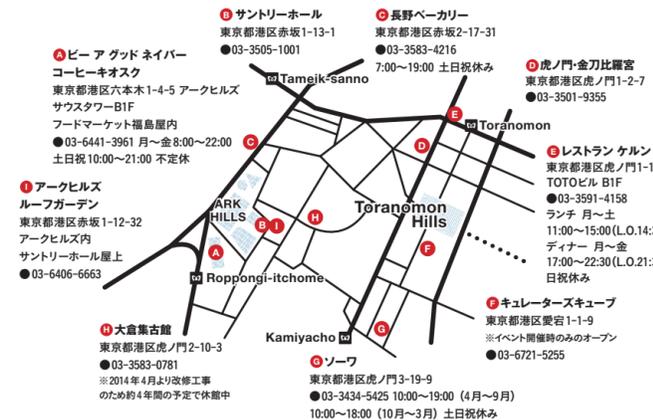
コーヒーから始めてぐるりとひとまわりする散歩道。



神谷町からホテルオークラの横を通り、スペイン大使館の脇から坂道を下ればアークヒルズということに気づき、ゆるやかな丘を上る。建て替えが決まったオークラ本館の美しい建物はできるだけ何度も見ておきたいと思う。大倉喜八郎・喜七郎親子の蒐集品を収蔵する美術館・大倉集古館もすでに改修のため休館していた。



神谷町も「キュレーターズキューブ」のある愛宕からは目と鼻の先。地下鉄日比谷線の神谷町駅のすぐ近くにある1955年開業の業務用アイスクリーム/シャーベットの店「ソーワ」は友人が教えてくれた。イートインスペースでソフトクリームを。



岡本 仁 街歩きとインスタグラムが好きな編集者。「BRUTUS」「relaxa」「kumeta」などの編集に携わった後、ランドスケーププロダクツに入社。



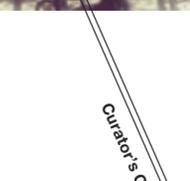
渋谷から新橋へ行くバスに乗る度に、窓から見えるこの店が気になっていた。何しろ創業は1948年だ。そんなに長く続くのはおいしいからに違いないと意気込んで中へ。コロッセパンを筆頭に数々の惣菜パン、菓子パン、食パン、すべてにおいてハイレベルだった。



Koishiwaga



虎ノ門交差点すぐ近くにある金刀比羅宮に参拝。讃岐丸亀藩の江戸藩邸内にあった香川県琴平市の金刀比羅宮の分霊だそうで、もともとは1660年に三田に建てられ、1679年に現在の場所に遷座された。「ほの香川案内」という本を書いているほどとは素通りする訳にはいかないのだ。

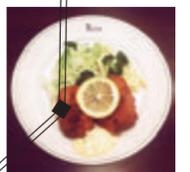


千駄ヶ谷の「ランドスケーププロダクツ」が運営するギャラリーショップ。以前は地下鉄銀座線の虎ノ門駅を利用して往復するだけだったが、近辺をぶらぶらしてみたらアークヒルズから歩けるし、新橋だって徒歩圏内。



Kern

平日は食事の店に困ることのない虎ノ門。逆にたくさんありすぎてどこにしたら良いかわからないくらいである。虎ノ門交差点の角にあるビルの地下へ。創業50余年の洋食屋「ケルン」でカニクリームコロッケを注文。つけあわせはコールスローとマカロニサラダ。



Hello, Mirai Tokyo!



ぼく、トラのもん。

2014年の皆さん、こんにちは。
22世紀のトーキョーからタイムマシンに乗ってきました。
ネコ型ビジネスロボット、トラのもんです。
なんのために来たのかって？
それは、みんなと一緒に「Mirai Tokyo」をつくるため。
世の中をイノベーションしていく
たくさんアイデアを、ここでカタチにしていくな。
さあ、虎ノ門ヒルズから「Mirai Tokyo」はじまるよ。
22世紀のトーキョーは……うふふ。



未来の東京は、ここからはじまる。虎ノ門ヒルズ。

さあ、未来の東京の話をしませんか。世界に、どんな東京を見せたいですか。22世紀の東京はどうなっているでしょう。未来の創造は、想像することからはじまります。私たち森ビルには、思い描いている未来の東京があります。そのヴィジョンの扉となる街が、いま開かれました。街の名は、虎ノ門ヒルズ。

官民一体となって実現した新しい街づくりは、さまざまな挑戦の連続でした。しかし、かつてない街をつくりだそうという強い思いが、この地に集結。環状2号線が開通し、アジアヘッドクォーター特区に位置する虎ノ門は、自由な空気とアイデアに満ちあふれ、街の磁力に共感したビジネスパーソンたちから次々とイノベーションが生まれてくる。そんな、東京でもっとも未来に開かれた街になっていきます。

虎ノ門は、TORANOMONへ。世界一の都市・東京をつくるという志を胸に。未来の東京は、ここからはじまる。そう宣言します。「Hello, Mirai Tokyo!」 虎ノ門ヒルズ、スタート。

TORANOMON HILLS 6.11 START

よりクリーンに、よりパワーを。
BMW EfficientDynamics

New BMW 4 Series
Gran Coupé

www.bmw.co.jp



駆けぬける喜び



革新の、 アクセルを踏み。

史上初の、BMW 4シリーズ グランクーペ、誕生。

クーペならではのエレガントなプロポーションが、あなたの目を奪う。卓越した走行性能が、あなたの心を奪う。それは、美しくスポーティでありながら、快適性にも、機能性にも一切の妥協を許さない、すべてが詰まった革新的なプレミアム・4ドア・クーペ。誰よりも充実した日々を送りたいあなたのために、これまでの常識を覆すまったく新しい一台。さあ、もう躊躇する必要はない。革新的なこの一台のアクセルを、踏み出せ。



New 420i Gran Coupé 8速AT 4ドア 右ハンドル	5,160,000円	New 420i xDrive Gran Coupé 8速AT 4ドア 右ハンドル	5,470,000円
New 428i Gran Coupé 8速スポーツAT 4ドア 右ハンドル	6,270,000円	New 435i Gran Coupé 8速スポーツAT 4ドア 右/左ハンドル	7,660,000円

「Luxury」、「M Sport」というさらなる個性も選べる、豊富なラインアップをご用意しております。

※表示の価格は、税金(消費税を除く)、保険料、登録の諸費用、付属品価格、オプション装備価格等を含まないメーカー希望小売価格(消費税8%込)です。販売価格はBMW正規ディーラーで各自定めておりますのでお問い合わせください。リサイクル料金が別途必要となります。価格は予告なく変更する場合がございます。写真の車は、ニューBMW 435i グランクーペ M Sport (8,030,000円)。一部日本仕様と異なります。ボディ・カラーはカーボン・ブラック。印刷の都合上、実際の色合いと異なる場合がございます。BMWに関するお問い合わせ、資料請求などはBMWカスタマー・インタラクティブ・センター0120-269-437へ、9時~20時まで対応、年中無休。記載の内容は2014年6月13日現在のものです。